

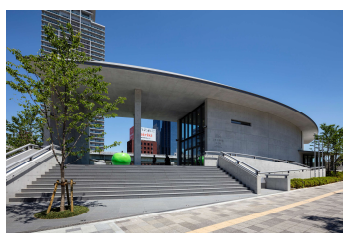
こども本の森京都の概要について

1 「こども本の森」について

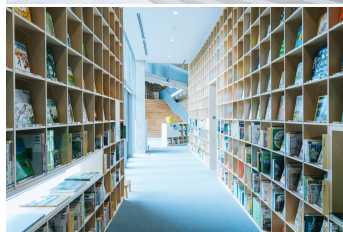
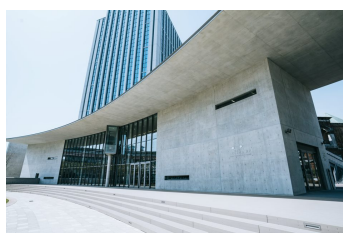
「こども本の森」は、建築家の安藤忠雄氏が、全国に設計、寄附してきた、子どもたちが多様な本と出会いながら読書を楽しむことができる施設です。

安藤氏は、御自身の経験から「これからの社会を支えていく子どもたちに、できるだけ多くの本と出会い、豊かな感性を育んでもらいたい。スマートフォンに触る時間を半分にして、本を読み、考え、そして悩むことで、人生を生き抜く力を身に付けてほしい。」と願われ、令和2年7月に大阪府大阪市に開館した「こども本の森 中之島」を皮切りに、岩手県遠野市、兵庫県神戸市、熊本県などにも寄附されており、令和8年度には北海道札幌市にも開館を予定しています。

(参考) 他都市の「こども本の森」



こども本の森 中之島 (大阪市)



こども本の森 神戸 (神戸市)



こども本の森 遠野 (岩手県
遠野市)

2 「こども本の森京都」について

安藤氏から本市に、中京区にある「元京都市立明倫幼稚園」の建物を活用した「こども本の森」の整備に必要な工事一式について寄附の申し出をいただきました。

この申し出を受けて本市では、屋外での活動が制限される雨天時や猛暑の夏場にも利用できる屋内の子どもの「居場所」を確保する重要性が年々高まっていることを踏まえ、子どもたちが、安心して過ごしながら本に出会い、感性と知的好奇心をはぐくむ「こども本の森京都」を、令和9年度中に開館する予定です。

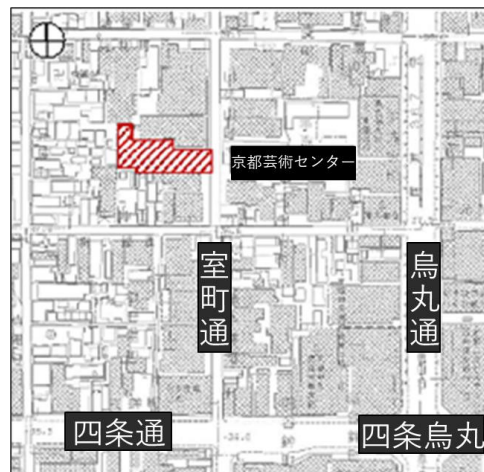
令和8年4月には市民アンケートを実施した上で「こども本の森京都基本方針」(3ページ参照)を策定し、施設の基本コンセプトや運営の方向性を決めました。

3 「こども本の森京都」の所在地について

「こども本の森京都」は、現在の「元京都市立明倫幼稚園」の建物を改修して開所する予定です。

「元京都市立明倫幼稚園」は、京都市中京区の四条烏丸交差点から徒歩でおよそ5分、京都の文化芸術振興拠点である京都芸術センターの向かいに位置しています。

市内中心部に位置し交通アクセスに優れているほか、「元京都市立明倫幼稚園」が立地する明倫学区は、14基もの山鉾を有し日本三大祭りの一つである祇園祭を受け継ぐ、文化と賑わいが共存するまちです。



所在地：京都市中京区室町通蛸薬師下る
山伏山町553

4 「元京都市立明倫幼稚園」について

「元京都市立明倫幼稚園」は、地元の方々から寄付をいただき、昭和12年（1937年）に開園し、平成8年（1996年）までの約60年間、多くの子どもたちを育んできました。

閉園以降も、明倫学区の自治会館や祇園祭山鉾連合会事務所としても利用されるなど、長きにわたり地域の皆さまから親しまれてきた、歴史ある場所です。

耐震性が不足しているとの診断を受けたため利用を中止し土地の活用の公募をしていたところ、安藤忠雄氏の目にとめていただき、「こども本の森京都」として生まれ変わるようになりました。



元京都市立明倫幼稚園（「こども本の森京都」に改修予定）

こども本の森京都基本方針

1 基本コンセプト

～こどもたちが文化・芸術に囲まれながら、

豊かな感性と知的好奇心をはぐくむ「明倫の寺子屋」～

地域からの寄付を経て設立された元京都市立明倫幼稚園を活用し、京都のこどもたちが、安心して過ごしながら本に出会い、感性と知的好奇心を育める「居場所」、さらには、祇園祭に山鉦を14基出し、祇園祭を受け継ぐ中心であるとともに、京都の文化芸術振興拠点の京都芸術センターがあるまちの特徴を生かし、こどもたちが、文化・芸術に触れられる場となる、「こども本の森京都」を整備します。

① 安心して過ごせる居場所づくり

昭和12年に地域からの寄付を経て設立され、多くのこどもたちの成長を見守ってきた元京都市立明倫幼稚園を活用し、こどもたちが本を起点に歴史や文化に触れながら、地域に見守られ安心して過ごせる「居場所」を創出します。

② 知的好奇心を刺激し、感性をはぐくむ空間

こどもたちが自由に探索し、発見できるような、魅力的な空間デザインと蔵書構成を行い、こどもたちの知的好奇心を刺激し、豊かな感性をはぐくみます。

③ 本物（ほんまもん）との出会いの場の創出

商業の中心地であるとともに、祇園祭には多くの山鉦が並び、京都の文化芸術振興の拠点である京都芸術センターがある、文化と賑わいが共存するまち明倫学区の特徴を生かし、こどもたちが、文化・芸術に触れることで、こどもたちの五感を刺激し、京都への愛着や豊かな創造力を高める機会を創出します。

④ 地域コミュニティとのつながり

これまで地域の方に愛され、地域コミュニティ活動の拠点として利用されてきた建物であることを踏まえ、こどもたちと地域が共生し、賑わいのある場所を創出します。

2 施設の位置付け等

(1) 位置付け

図書館法上の図書館でない文化施設とし、こどもが良質で多様な本と芸術文化に出会うことで、豊かな感性と知的好奇心を育む施設とする。

(2) 建設と管理の役割分担

京都市が所有する元京都市立明倫幼稚園を株式会社安藤忠雄建築研究所が設計・改修し、完成後は京都市が公の施設として管理する。

(3) 運営

指定管理者による運営

(4) 対象年齢

主に未就学児から小学生

※ 年齢による利用制限なし。

(5) 蔵書数

概ね1万冊

※ 絵本・児童書を中心として、図鑑、写真集、文化・芸術、京都の文化、慣習、歴史、伝統工芸に関するもの等を揃え、配架はこどもの視点で創造性を刺激するようなゾーニングとする。

※ 本の貸出しは行わない。

(6) 入館料等

無料（但し、有償のイベント、物販等も検討する。）

(7) 企画・行事

特色ある行事・展示等の企画を実施する。その他、京都芸術センターや地域等とつながりながら、イベント、ワークショップを展開する。

(8) 施設の名称

こども本の森京都

3 建設場所

(1) 建設場所

京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町553番地

《当該地の立地の考え方》

- ① 地域からの寄付を経て設立され、多くのこどもたちを育ててきた歴史ある元京都市立明倫幼稚園を活用し、地域に見守られながら、こどもたちが安心できる居場所づくりが期待できること。
- ② 四条烏丸という市内中心部に位置し、交通アクセスに優れていること。
- ③ 元京都市立明倫幼稚園が立地する明倫学区は、烏丸通、四条通、三条通、西洞院通に囲まれた京都市の中央部に位置し、商業、経済の中心地として栄え、14基もの山鉾を有し日本三大祭りの一つである祇園祭を受け継ぐ、文化と賑わいが共存するまちである。京都芸術センターにも隣接しており、こどもたちが、文化や歴史、芸術に接し、学ぶ場所として適していること。

(2) 建物概要

（構造）木造、一部鉄骨造平家建（予定）

（床面積）約600平方メートル

4 スケジュール

令和8年夏頃以降 建物改修着工

令和9年度中 完成目途

参考2：「こども本の森京都（仮称）整備・運営に関するアンケート」の調査結果

下記のURLから、「こども本の森京都基本方針」の策定に当たって、地域にお住まいの方、子育て中の方はもとより、お子様自身も含めて、広く市民の皆様のニーズを把握し、基本方針の策定等にかかしていくことを目的に実施したアンケートの調査結果を御覧いただけます。

京都市情報館：こども本の森京都基本方針

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hagukumi/page/0000353744.html>